

令和5年度

県営都市公園 外部評価結果報告書

令和6年3月

静岡県都市公園懇話会 外部評価委員会

外部評価の対象とする県営都市公園

区分	面積 (ha)	供用開始日	指定管理者
静岡県草薙総合運動場	26.4	S38.4.16	東京ドーム・東急・静鉄共同事業体
遠州灘海浜公園	20.3	S63.10.9	天龍造園建設グループ
愛鷹広域公園	19.4	H 1.7.16	あしたかスポーツ&ネイチャーパートナーズ
静岡県富士山こどもの国	94.5	H11.4.26	小泉アフリカ・ライオン・サファリ(株)
小笠山総合運動公園	269.7	H13.5.10	静岡県サッカー協会グループ
吉田公園	14.3	H13.8.1	特定非営利活動法人しずかちゃん
浜名湖ガーデンパーク	34.6	H17.6.5	浜名湖えんてつグループ

目次

外部評価の実施

令和5年度 実施内容

令和5年度 7公園9段階評価ポイント

- 1 静岡県草薙総合運動場
- 2 遠州灘海浜公園
- 3 愛鷹広域公園
- 4 静岡県富士山こどもの国
- 5 小笠山総合運動公園
- 6 吉田公園
- 7 浜名湖ガーデンパーク

外部評価の実施

静岡県では、都市公園の指定管理者制度への移行に当たり、指定管理者の業務状況を確認するだけでなく、業務自体が公園の設置目的の達成に貢献しているかを客観的に評価するため、平成17年度から外部評価制度を導入している。

評価は、業務の実施内容を評価する管理運営評価(一次評価)と、公園の公益性や設置目的との適合性の評価(二次評価)の二段階で行った。

一次評価では公園の目的、業務体系を表したパークマネジメントカルテに基づき、事業者の自己評価、来園者アンケート、県による事業診断を行った。

二次評価では、一次評価結果データや現地視察の結果に基づき、外部有識者（静岡県都市公園懇話会委員）が意見交換し、設置目的の内容を機能別に分類した項目ごとに「Aプラス」から「Cマイナス」までの9段階評価と文章により総合判定した。今後、指摘された具体的な改善点などに基づき、指定管理者の管理運営の内容の向上に活用していく。

令和5年度 実施内容

区分	実施内容	説明	実施時期
I	パークマネジメントカルテ	設置目的から個別業務内容までを構造的に示した作戦体系図を作成し、業務ごとに年間目標値を定めた。	令和5年6月
II	外部評価アンケート	公園の基礎的な管理項目と来園目的に対する満足度を5段階で調査した。県営7公園の利用者を公園現地で無作為抽出し、対面式・回収式で調査した。	春・夏
III	一次評価	パークマネジメントカルテの実績、外部評価アンケート、職員モニタリングを基に、評価基準に従い客観的に数値付けした。	10月～11月
IV	公園現地視察・指定管理者へのヒアリング	外部評価委員による現地視察及び指定管理者へのヒアリングを実施した。	9月～11月
V	二次評価	I～IIIのデータに、県営7公園の公益性や設置目的との適合性に関する外部評価委員の知見を加えるとともに、委員による公園の視察結果を基に評価を総括した。	令和5年12月～令和6年3月

(参考) 9段階評価ポイントの意味

記号	意味	その他
A	十分満足できる	心象としてABCに対し上回るか下回るかにより、必要に応じ、+、-の付加記号を付ける。
B	概ね満足できる	
C	努力を要する	

令和5年度 県営都市公園の9段階評価ポイント

評価ポイント

静岡県草薙総合運動場

R 4

R 5

評価の総括		A-	A-
機能別評価	A 多様なスポーツニーズに対応する施設としての役割強化	A	A
	B 地域や利用者の方々が交流できる場の提供	A	A
	C 地域との連携・協働	A-	A
	D 利用者ニーズを踏まえたサービスの提供	A-	A
	E 公園の魅力の広報	A-	A-
	F 収益向上への取組	A-	A-
	G 安全・安心で快適な施設の提供	A	B+

遠州灘海浜公園

R 4

R 5

評価の総括		A-	A
機能別評価	A スポーツに親しむ場の提供	A	A-
	B 自然に学ぶ場の提供	A+	A
	C 地域利用の場の提供	B+	A
	D 地域との連携・協働	A-	A-
	E 利用者ニーズを踏まえたサービスの提供	B+	A
	F 公園の魅力の広報	B+	A-
	G 収益向上への取組	A-	A-
	H 安全・安心で快適な施設の提供	A-	A

愛鷹広域公園

R 4

R 5

評価の総括		A-	A
機能別評価	A 県東部地域のスポーツ振興のための大会・イベントの実施	A+	A+
	B 自然と親しむ場の提供	A-	A
	C 地域との連携・協働	B+	A-
	D 利用者ニーズを踏まえたサービスの提供	A-	A
	E 公園の魅力の広報	A-	A
	F 収益向上への取組	A-	A
	G 安全・安心で快適な施設の提供	A	A

静岡県富士山こどもの国

R 4

R 5

評価の総括		A-	A
機能別評価	A 自然を活かした多様な遊び、夢や冒険心を育む遊び場の提供	A	A
	B 生命の尊さや自然の豊かさを学ぶ場の提供	A	A
	C 地域や利用者の方々が交流できる場の提供	A	A+
	D 地域との連携・協働	A	A+
	E 利用者ニーズを踏まえたサービスの提供	A-	A-
	F 公園の魅力の広報	B+	A-
	G 収益向上への取組	A	A-
	H 安全・安心で快適な施設の提供	A	A

小笠山総合運動公園

R 4

R 5

評価の総括		A	A
機能別評価	A 県の頂点となる大会の開催（国際大会、全国大会、県大会等）	A+	A+
	B 地域利用・多目的利用の推進	A	A
	C 地域・企業との連携・協働	A+	A
	D 利用者ニーズを踏まえたサービスの提供	A+	A+
	E 公園の魅力の広報	A+	A+
	F 収益向上への取組	A	A-
	G 安全・安心で快適な施設の提供	A+	A

吉田公園

R 4

R 5

評価の総括		A- <th>A- </th>	A-
機能別評価	A 花や緑に親しむ機会の提供	A	A
	B 地域住民の利用促進	A	A
	C 地域との連携・協働	A-	A-
	D 利用者ニーズを踏まえたサービスの提供	B	B
	E 公園の魅力の広報	B+	A-
	F 収益向上への取組	B	B
	G 安全・安心で快適な施設の提供	A	A

浜名湖ガーデンパーク

R 4

R 5

評価の総括		A	A-
機能別評価	A 憩いの場として、多彩な花・緑との出会いの場を提供	A+	A-
	B 多様なレクリエーションの場の提供	A+	A-
	C 地域との連携・協働	A	A+
	D 利用者ニーズを踏まえたサービスの提供	A-	A-
	E 公園の魅力の広報	A	A+
	F 収益向上への取組	A	A-
	G 安全・全安心で快適な施設の提供	A	A

1 静岡県草薙総合運動場

● 評価の総括

[9段階評価] A⁺ A A⁻ B⁺ B B⁻ C⁺ C C⁻

静岡県内の中心部に近く、また静岡市の市街地に位置する本施設は、県民をはじめとする多くの人々のスポーツニーズに対応していく責務がある。今年度は、5月に新型コロナウイルス感染症に関連する様々な制約が解除され、社会全体がコロナ前の様相に回帰しようとしている。その一方で、緊急事態宣言やまん延防止等重点措置など長期にわたった感染症対策は、コロナ前にはなかったオンラインによるコミュニケーションの普及や在宅勤務など新たな慣習を国民に定着させた。今後は、コロナ禍以前の状況に回復させることと同時に、変化社会に適応した新たな施設のあり方を模索していく必要がある。コロナ禍の影響が残存する今年度の本施設の利用者数は、目標には到達していない（中間目標 560,350 人、中間実績 479,753 人）。しかしながら、昨年度の中間利用者数（中間目標 560,350 人、中間実績 439,369 人）、一昨年度の利用者数（中間目標 549,050 人、中間実績 397,170 人）との比較検討からコロナ禍前の様相に回帰しつつあることが推察できる。実際の取り組みとして、プロ野球公式戦などの公式戦を開催し、県民にトップアスリートのパフォーマンスを観戦する機会を提供し、アマチュア、シニア、パラアスリート、大学生、高校生など幅広い層の競技大会も多数開催されている。シニア年代の公式大会などは、今後いっそう高齢者層のニーズが高まることが予想される。パラスポーツ競技においては、各競技によって独自の施設や用具が必要となるが多いため、今後多くの種目に対応可能になるよう準備を進めてほしい。本施設で提供しているトレーニング室個別指導や水遊び教室などの自主事業は、多数のプログラムにおいて目標を上回る参加者を記録している。利用者の満足度の向上に努めた成果であろう。

自主事業の他にもスポーツ、文化の両面から多数のイベントが開催されている。高齢者の参加を可能にするためS型デイサービスとの連携に取り組んだり、新たにドッグランを設置するなど利用者層の拡大に着手していることも高く評価したい点である。一方で、利用者へ実施したアンケートでは、例年同様、老朽化した施設の刷新・改修や公園内の清掃に関する要望の声が多く見られる。公園視察の際、プール周辺の遊歩道において、地面が隆起している箇所があり、転倒の危険性が見受けられた。予算の調整が困難であることは理解できるが、早急に対策をお願いしたい点である。

● 改善事項

現地視察、及び各種資料から抽出された本施設の次年度以降の改善事項として以下の3点が考えられる。

- ① コロナ禍によって生じた県民の生活スタイルの変化に留意した公園づくりを継続する。
- ② 従来の競技スポーツに加え、シニアスポーツ、パラスポーツへもよりよく対応する。
- ③ 施設の老朽化に伴う外観の劣化等を緩和するため、対応する修繕・メンテナンスを継続する。特にプール周辺の遊歩道へのリスクに対応する。

そのほか、新たに改善が必要なものではないが、下記の2点について、これまでの取り組みを継続していただきたい。

- ① 駐車場利用の利便性向上
- ② 自然災害等の緊急時に備えた対策・準備

● 機能別の評価

A 多様なスポーツニーズに対応する施設としての役割強化

[9段階評価] A⁺ A A⁻ B⁺ B B⁻ C⁺ C C⁻

コロナ禍の影響が残存する状況下の中においてもプロ野球公式戦（ヤクルト対巨人）や国際大会であるSBSカップユースサッカーなどの公式戦を開催し、県民にトップアスリートのパフォーマンスを観戦する機会を提供した。また、静岡市町対抗駅伝や第70回東海地区高等学校野球東海大会や、東海学生サッカートーナメントなどアマチュア、大学生、高校生などの競技大会も多数開催されている。さらに、今年も西日本古希軟式野球大会、東海地区盲学校フロアバレーボールなどシニア年代の公式大会やパラスポーツ競技が行われた。シニア年代のスポーツ人口は近年急激に拡大している。例えば、サッカーの場合はシニア年代（40歳以上）の登録者数は、直近10年間で約10倍近くにもなっており、本施設においても今後はいっそう高齢者層のニーズが高まることが予想される。パラスポーツ競技においては、各競技によって独自の施設や用具が必要となることが多いため、今後多くの種目に対応可能になるよう準備が進められていくことを期待している。

本施設で提供している自主事業、スポーツプログラムにおいては例年同様、多数のプログラムにおいて目標を上回る参加者を記録している。例えば、新型コロナウイルス感染症の状況の変化の影響もあると思われるが、トレーニング室個別指導の実施については昨年度から飛躍的に回数も向上している。このように利用者の状況を見ながら柔軟な対応とともに、さらなる満足度の向上を目指してもらいたい。

B 地域や利用者の方々が交流できる場の提供

[9段階評価] A⁺ A A⁻ B⁺ B B⁻ C⁺ C C⁻

コロナ禍の影響があるにも関わらず、スポーツ、文化の両面からイベントを多数実施することができている。スポーツイベントに関しては各種自主事業で行われているプログラムに加え、ヨット乗船体験やフットサル（enjoy 個サル）、駿府エリアウォーキングなど競技性の低いイベントで気軽に参加できる内容であることも利用者の交流を促進している。ぬりえや工作づくり、科学実験出前講座、雨天中止になってしまったが「児童プールをペイントしよう」等も子供たちが本施設に足を運ぶきっかけとなる催しになっていることも本施設の認知に広く普及している。また、キッチンカーや草薙まつりの開催など、イベントがコロナ禍前と同様に行われるように目標を大きく上回る回数で打ち合わせが行われ、多大な努力がうかがわれる。さらに、高齢者の参加を可能にするためS型デイサービスとの連携に取り組み、新たにドッグランを設置するなど利用者層の拡大に着手していることも高く評価したい点である。

C 地域との連携・協働

[9段階評価] A⁺ A A⁻ B⁺ B B⁻ C⁺ C C⁻

今年度もエコキャップ運動や花いっぱい運動の実施などのボランティア活動を例年以上に実施することができている。雨天などで中止になったボランティア活動に関しては、今年の反省を踏まえて天候に左右されない活動案なども考慮していく必要があるだろう。また、例年実

施されている地元大学生によるバスケットボール・バレーボール教室のアシスタントコーチ派遣も教室の潤滑な運営の一助となり、かつ大学生へは貴重な実践的な学習の場となるため、今後も継続してってもらいたいと考える。今年からの新しい試みとして中学生の職業体験の受け入れを行った。職業体験は、通常の利用では感じることはできない公園運営に関する深い理解を提供できる貴重な機会として、今後もより多くの中学生に参加してほしい活動である。当初の目標では2回を予定としていたが、近隣の中学校に申し入れしたところ、積極的に対応していただくことができ、今年度は計5回の体験を実施でき、来年度はさらに多くの回数を実施したいところである。近隣の商業施設、公共交通機関には草薙通信の配架について連携・協力を得ており、プロ野球公式戦やお祭りなどイベントの周知に貢献してもらっていて、今後も連携・協働していきたい取り組みである。

D 利用者ニーズを踏まえたサービスの提供

〔9段階評価〕 A⁺ A A⁻ B⁺ B B⁻ C⁺ C C⁻

フリーパス会員やトレーニング室の利用者がともに増加し続けており、多くの利用者の満足度が高いことが推察できる。近年の少子化の影響により、多くの学校運動部活動が少人数による活動継続の困難を抱えている。本施設での自主事業の一つである水泳教室から中体連への大会参加を行えたことはこういった課題解決に大きく寄与するものである。大会参加にあたり、数多くの打ち合わせを行っていることから解消すべき課題も多くあることがうかがえるが、今後の子供たちのスポーツ活動のニーズに対応してもらいたい。

近年継続している施設の改修も、限られた予算の中で、アンケートや利用者数を考慮しながらトイレの洋式化や観客席の改修を継続し、サービスの質向上に努めている点は評価できる。

E 公園の魅力の広報

〔9段階評価〕 A⁺ A A⁻ B⁺ B B⁻ C⁺ C C⁻

先述した自主事業でのトレーニング室個別指導の利用希望者の大幅な増加の大きな要因として、本施設のYouTube開設による影響が考えられる。本施設で行われる多くのイベントはInstagramなどのSNSを通じて多くの参加者に周知されていて、今後も効果的な活用方法に取り組んでももらいたい。本年度はLINEを利用した広報活動も効果を示しており、登録者数の増加とともに有効な情報発信ツールとなり得ていることから継続して有効活用していきたい。一方で、チラシやフリーペーパーなどいわゆる紙媒体での広報も継続しており、主として高齢者層への情報発信にも取り組んでいる点は評価したい。

F 収益向上への取組

〔9段階評価〕 A⁺ A A⁻ B⁺ B B⁻ C⁺ C C⁻

近年のコロナ禍、そして今年度も新型コロナウイルス感染症の影響が残存する中でスポーツや文化関連のイベント、様々な競技による自主事業やフリーパス利用者の増加などあらゆる視点からの取り組みにより公園利用者を確保し、収益を確保していることは高く評価できる。今年度から省エネへの取り組みを本格的にスタートさせていることは、コスト削減とともにSDGsの観点からも重要であり、今後、長期的に取り組んでいくことを期待したい。

G 安全安心で快適な施設の提供

[9 段階評価] A⁺ A A⁻ **B⁺** B B⁻ C⁺ C C⁻

スポーツや文化活動をはじめとする利用目的が多岐にわたる本施設においては、テクノロジーの活用と同時に目視など感覚的な確認が安全の維持に不可欠である。そのような視点から、点検表の自動作成機能や施設の不具合管理機能等を有した「管理ロイド」アプリによるデータ分析やドローンの活用、危機対応の講習会などを実施し、より危険性の少ない環境づくりを心掛けている。近年の夏場の猛暑による熱中症、急激な降雨と洪水被害、予期できぬ地震災害などいくつかの天災が危惧されており、継続して対策を準備することを期待する。公園視察の際、プール周辺の遊歩道において、周囲の樹木の影響により地面が隆起している箇所があり、転倒の危険性が見受けられた。予算の調整が困難であることは理解できるが、早急に対策をお願いしたい。

2 遠州灘海浜公園

● 評価の総括

[9段階評価] A⁺ **A** A⁻ B⁺ B B⁻ C⁺ C C⁻

今年度は、新型コロナ禍の収束のなか、公園利用者数は、中間目標 50,000 人に対して中間実績は 59,406 人（118%）と目標を上回り、また昨年度の中間実績 37,354 人からは前年同様 6割増であり、回復傾向は明らかであり喜ばしく思う。

公園の機能別に見ると、利用者サービス、広報・情報発信、安全・安心・快適な施設提供など、管理運営面では諸業務について目標通り着実に取り組みが行われ、特に利用者サービス関係では成果も具体的に表れており、指定管理者の相応の努力が認められる。利用者アンケートの総合満足度を見ると 4.44 と前年（4.41）よりやや改善の兆しもうかがえる。また、施設別、目的別の利用満足度を見ていくと、トイレ清掃についてやや低めであったのが改善されており、より快適な公園施設の利用環境の維持管理が図られているものと評価できる。

一方、スポーツに親しむ、自然に学ぶ、地域利用など利用面では、催物（大会、教室、イベント等）の開催回数・参加人数は新型コロナ禍からの回復基調にはあるが、機能・内容により回数・人数の目標達成度合にはバラツキがうかがえ、単純な目標=実績評価が適切か疑問も感じられる。全体傾向を概観すると、公園利用者数全体に占めるそれら催物（大会、教室、イベント等）の参加者総数の比率（70%）は、新型コロナ禍以前（R1）の比率（97%）より少なくなっており、特定の催物参加以外の公園利用者数比率の増加傾向が見てとれる（3%→30%）。また、各催物区分の 1 件あたり平均参加人数はいずれも減少傾向がうかがえる（大会/R1：1,021 人→R5：484 人、教室/同 48 人→29 人、イベント/同 349 人→258 人）。利用動向は尚注視していく必要がある。

昨年、今年と、総じて公園利用は回復基調にあるものの、新型コロナ禍をはさみ、その間に社会情勢の変化もあり、利用構造が変化した可能性が考えられる。この辺りは、今後の公園の企画運営、目標管理の立案・推進にあたり注視、分析、検討が期待されるところである。

● 改善事項

新型コロナ禍をはさみ、社会情勢や利用者ニーズの変化も視野に入れ、県営遠州灘海浜公園（石人の星公園）の資源を再確認し、大局観を持って公園の利用構造、各催物参加の変化動向等に分析・検討を行い、中期的な観点から公園のあり方や戦略性、各催物事業のやり方、総合的な管理運営システムの調査検討を進めていただきたい。

当面は、公園の状況等も踏まえ、以下の諸項目についての検討・実施が課題になるだろう。

- ①「石人の星公園」への運営上の名称の統一、並びに「石人の星」のコンセプトをベースにした公園全体の統一性、テーマ性、シナリオを構築する（石人のキャラクター利用も視野）。
- ②隣接した公園（浜松市営公園）との利用面での連携、浜松市内学校・企業・施設等との催物の企画・運営、広報プロモーション等含め、引き続き地域連携を推進する。
- ③建物・トイレの日常的修繕・清掃に加え、高齢者利用増、非催物利用者増を鑑みた公園生活基礎サービスの充実を検討・推進する（軽食・喫茶・休憩、散策・モビリティ、情報案内等）。親子連れ利用の多いサイクル広場、遊具広場の充実を引き続き検討・推進する。
- ④上述検討も視野に入れて、公園案内情報メディア（パンフレット、HP 等）を、時機を見て改訂ないし編集制作する。

施設の老朽化や他施設・団体・企業等との連携の根幹に関しては、必要に応じ設置者である県とも協議・連携しつつ改善への取り組みを進めてほしい。

また、今後は、県営公園としての適切なサービス水準、県営公園ならではの社会実験的プログラム、サービス向上に伴う新たな収益サポートシステムの導入などの検討も必要になるろう。

● 機能別の評価

A スポーツに親しむ場の提供

[9段階評価] A⁺ A A⁻ B⁺ B B⁻ C⁺ C C⁻

大会や教室の開催数は、新型コロナ禍の収束のなか、目標数を上回っており指定管理者により積極的に取り組まれている（中間実績での開催数ではサッカー、ラグビー大会で目標対比約5割増、スポーツ教室では目標数の2倍近い）。ただ参加人数に関しては目標とのギャップが感じられる（スポーツ教室等では目標を3割超下回り、サッカー、ラグビー大会では1大会あたり参加者数は2割超下回る）。前年度に引き続きベトナムサッカーチームの強化合宿が誘致・開催され、教室では新たに子ども向けノルディックウォークやスウェーデン発祥のクップ体験会の開催に取り組むなど、生涯スポーツの観点からプログラムの広がりにも努めている。そのように大会や教室の開催数増や内容の広がりには評価できるところである。一方で参加人数に関しては、目標対比で見ると課題も感じられるところであり、アンケート調査によると大会・教室への満足度（3.8）は他公園に比してやや低めなのも気掛かりである。新型コロナ禍をへきみ、大会・教室の規模感に変化が生じつつあるのか、あるいは広報・集客面でのミスマッチがあるのかなどを含め、今後の大会・教室の企画・誘致・運営に向けて分析・対応が求められるところでもある。

B 自然に学ぶ場の提供

[9段階評価] A⁺ A A⁻ B⁺ B B⁻ C⁺ C C⁻

野鳥観察会、こども自然楽校等については、中間実績では概ね目標通りの開催数であり、参加人数では目標値を上回っており（113%）、所定の成果を挙げていると評価できる。新型コロナ禍にあっても相対的に利用の落ち込みの少なかった分野であり、子どもたちの自然を学ぶ場への利用ニーズは底堅いものと考えられる。ただ利用者アンケートからは自然観察や環境学習等のプログラム提供への満足度は高いと言い難い（3.7、前年は3.8）。関係プログラムの回数・人数とも新型コロナ禍以前（R1）に近い利用水準に届いているが、公園の特性や地域ネットワークなどを活かし、潜在的な利用者ニーズにも応えられる関連プログラムの企画・運営の積極化を期待したい。

C 地域利用の場の提供

[9段階評価] A⁺ A A⁻ B⁺ B B⁻ C⁺ C C⁻

緑地空間（自然生態観察園等利用）の提供では、中間時点では利用件数は目標対比7割台であるが（中間目標240件に対して183件の実施）、参加人数では目標数を達成している。今期は天候事情もあり雨天中止が20回を数え、開催数の目標未達はやむを得ないところである。

実施した各回の参加者数は平均 32 名と事前予想を約 4 割上回り、利用ニーズの高いプログラム分野と考えられる。アンケート調査による自然生態観察園、観察広場の利用満足度の上昇(前者 4.2、後者 4.1、両者とも前年は 3.7)も軌を一にすると考えられる。ただ、新型コロナ禍前(R1)との比較では尚件数増、参加人数増の余地が見込まれるところであり、引き続き積極的な企画・運営への取り組みを期待したい。

スポーツ以外の地域イベントに関しては、今期の開催数は目標に届いておらず(中間実績で目標対比 9 割程度)、参加人数でも目標を 2 割近く下回っている。ただ、雨天中止が 8 件あり目標未達はやむを得ないが、参加人数については各回平均で目標対比で 9 割を達しており、イベントという不確実性の高い分野にあっては、総じて目標に即して指定管理者において尽力・実施されたと言えるだろう。既に新型コロナ禍前を上回る回数を取り組まれているが、メダカイベント、愛犬イベントは好評であり、公園の地域特性も鑑みた新たな取り組みも期待したい。

D 地域との連携・協働

[9 段階評価] A⁺ A **A⁻** B⁺ B B⁻ C⁺ C C⁻

清掃ボランティアの参加に関しては、回数に関しては目標を上回り実施しているが、参加人数は目標を 2 割ほど下回っており、1 回あたりの参加人数も予想より少なくなっている。周辺施設等(近隣学校等)との連携は、浜松市学校・施設との連携イベントの開催等もあり、回数・人数とも中間目標を上回っている。特に参加人数に関しては目標対比 5 割超の中間実績を示している。後者については新型コロナ禍の落ち込みからは回復基調がうかがえるが、新型コロナ禍以前との比較では連携・協働のボリュームが戻りつつあるとは言いがたく、引き続き連携・協働の新しい形(企業 CSR との連携等)も模索しつつ、学校・団体・企業・自治体への積極的な働きかけを期待したい。懸案であった隣接公園(浜松市営風車公園)との連携にも着手されており、今後の展開には注視したい。尚、前者に関しては、従来型のボランティアスタイルへの閉塞感もうかがえるところであり、新たな担い手、参加方式等の検討の必要性も考えられる。

E 利用者ニーズを踏まえたサービスの提供

[9 段階評価] A⁺ **A** A⁻ B⁺ B B⁻ C⁺ C C⁻

利用者ニーズの把握(アンケート)、利用者の利便性向上(売店、自販機の売上)では中間目標を上回る中間実績を示しており、指定管理者の積極的な取り組みを評価したい。売店、自販機の売上増は新型コロナ禍収束後の利用者数回復を確認できるものであり、平常化への喜ばしい足跡と言えるだろう。また、福祉サポート(車いすの常備、清掃、点検)にも着実に取り組まれている。こちらについては、今後高齢者の一層の公園利用増が見込まれるなか(アンケート調査では 65 才以上利用者比率が過去 3 年 3.8%、6.1%、14.7%と増加)、従来型の福祉サポートの枠を越えた新しい公園散策モビリティサポートツールの導入等の検討があってもいいかもしれない。新たに紙パック飲料自販機を導入しているが、幼児需要が多く好評価が得られている。尚、昨年 12 月に公園正門脇にコンビニが新たに開店したが、公園内物販・飲食サービスについては再考を要す可能性もあるだろう。

アンケート調査の施設別満足度に目をやると、球技場の評価(3.9)がやや低めで気掛かりだが、他の施設については概ね前年評価を上回っており(大半が 4.0 以上)、特に建物内清掃、トイレ清掃の満足度評価の上昇が目にとまる。トイレ清掃等がかねてより管理課題として指摘され、利用者からも声が寄せられてきたが、今期に入って着実に取り組まれ、県協議も含め積極的な姿勢が示されるなど、指定管理者の努力は評価したい。公園施設・利用の清掃・サービスの改善・工夫には引き続き積極的に取り組んでほしい。

F 公園の魅力の広報

[9段階評価] A⁺ A A⁻ B⁺ B B⁻ C⁺ C C⁻

新聞・テレビでの情報提供の実施（32件）は目標に届いていないが、イベントカレンダー等の配布（208件）、SNSでの情報発信（195件）については概ね目標通りに実施されている。各々の実施回数も鑑みると、指定管理者においては広報・情報発信については着実に実施されていると評価できる。利用者アンケートからもHP・マスコミ等の情報発信の満足度はやや高くなっており（前年3.7→3.9）、着実な広報・情報発信の成果もうかがえるところである。ただ、昨年同様他公園に比しては利用者満足度の評価がやや低めであるなど、成果については十分とは言い難い面も感じられるところである。今後は他施設、市内企業等との連携も視野に、戦略的広報の取り組みの積極化や、野鳥、植生等公園の自然資源を活用したより広域的な情報発信への工夫も期待したい。

G 収益向上への取組

[9段階評価] A⁺ A A⁻ B⁺ B B⁻ C⁺ C C⁻

中間実績では、持ち込みイベントの誘致、経費節減及び自主事業による利益還元とも目標を上回る実績を挙げており、指定管理者の運営努力の跡がうかがえる。ただ、それら件数・金額とも中間目標は達しているものの、過年度（新型コロナ禍前）との比較では、公園利用者数の増加に照らして持ち込みイベントの誘致数、自主事業収入増はさほど大きいとは言えず、今後は収益面でも寄与するイベント誘致や各種プログラム導入など期待したい。また、利用者サービス向上につながる売店機能の充実等も期待したいところである。

H 安全・安心で快適な施設の提供

[9段階評価] A⁺ A A⁻ B⁺ B B⁻ C⁺ C C⁻

中間実績では、全ての関係項目で昨年同様に目標通りの実績が達せられており、十分に満足できる堅実な管理運営の取り組みがなされていると評価できる。それら成果を利用者アンケートで見ると、全体的には昨年同様比較的高い満足度が得られており（管理項目別）、日常的な点検・清掃の成果が現れていると考えてよいだろう。ただ、施設別に見ると、球技場の満足度がやや低いのが気掛かりな面もあり、状況・要因の分析・検討を行い、円滑かつ利用しやすい管理・運営に活かしてほしい（スポーツ大会の利用者数の伸び悩みに関係する可能性もある）。また、遊具類の使いやすさや安心度への満足度は高めである一方で、遊具類の充実を求める声も少なくなく（ブランコ、アスレチック関係等）、管理面やサービス向上との兼ね合いから新たな遊具類整備の検討も課題だろう。建物内清掃、トイレ清掃に関しては、運営側の取り組みもあり利用者の満足度に改善が見られるのは喜ばしい。施設老朽化によるやむを得ない要因もあると思われるが、引き続き安全・安心に加え快適な施設の維持管理、善サービス向上への検討・対応に努めてほしい。

3 愛鷹広域公園

● 評価の総括

[9段階評価] A⁺ **A** A⁻ B⁺ B B⁻ C⁺ C C⁻

新型コロナウイルスの「5類」移行に伴い、公園の運営もポストコロナの時代に合わせて、従来からのプログラムやイベントに加えて新たな試みが積極的に実行されている。昨年は競技会等の開催中止、自粛や無観客による開催などのほか、台風によるJリーグの中止等の影響で、公園利用者数は目標値を下回っていたが、令和5年度は各種競技会が予定通り開催され、公園利用者数が中間実績で183,926人と、昨年度の中間実績(143,643人)を大きく上回っており、コロナ禍からの順調な回復が見られる。これは指定管理者の得意分野であるスポーツ面での積極的な取り組みが功を奏した結果でもあり高く評価する。特に陸上、サッカー、野球大会の開催回数も目標値を大きく上回り、加えて、特に大人向けのプログラムやイベントはますます多様化しており、その活発な活動実績は特筆に値する。

また、9月の視察時の感想としては、昨年度の評価で改善項目に挙げた、芝生の管理が非常に細やかに実施されており評価したい。また、従来通りスポーツ施設と自然環境がバランスよく融合して、多様な人々にとって楽しめる憩いの場所になっており、自然環境の維持管理も高いレベルで実施されている。ホタル祭りや桜のライトアップ、地域と連携した花壇づくりなど、自然豊かな公園環境を活かしたイベントも実施されており、施設全般の良好な管理・運営に努力を重ねている。

アンケート結果による利用者満足度は昨年度の4.27から今年度は4.40となり、特に職員の対応はポイントが高くなっており、利用者サービスを充実化していることを評価したい。春のアンケートでは概ね気持ちよく使わせてもらっているという感謝のコメントが多かったが、一方で、夏のアンケートでは猛暑が続いたことで、エアコンの設置を求める声が多く、今後の検討が必要である。

● 改善事項

・ボランティア

昨年度からボランティア・コーディネーターを配置して、ボランティアの人材募集を継続している。ただなかなか人数が増えない状況のようで、常時ホームページ上で告知をしたり、教室や散歩にくるリピーターに声がけするような工夫をして、ボランティアの人数増加を目指してほしい。ボランティアは花壇の作業協力という意味で大変助かるのはもちろんのこと、地域との連携、地元ファンを増やすという意味でも、公園にとって重要な役割を果たしてくれると考える。

・温暖化による猛暑への対応

夏のアンケートの意見で多かった暑さ対策は喫緊の課題であり、今後熱中症対策はますます不可欠になってくる。エアコンの修繕、設置などは県の範疇となるので、長期的な計画が必要になると思うが、差し当たり可能な範囲で対応できることを実施してほしい。例えば、必要に応じてテントや簡易なミストの設置などを検討されたい。また中長期的には植栽による木陰づくりなども考えていければ、SDG'sの活動にもつながるだろう。

- ・夜間の街灯

同じくアンケートの中で、夜間の利用者からの意見として、街灯が少なくて駐車場に戻る際に暗いという意見があったので、街灯も県との協議になると思うが、足元灯など簡易に設置できる器具での対応を検討いただければ当座の安心安全につながるだろう。

● 機能別の評価

A 県東部地域のスポーツ振興のための大会・イベントの実施

[9段階評価] A⁺ A A⁻ B⁺ B B⁻ C⁺ C C⁻

コロナ禍からの回復を受けて、全体的に非常に活発化していると評価したい。コロナ前まで毎年実施されてきた、陸上、野球、サッカーなどの大規模な定番大会（高校野球（春、夏）、東部陸上選手権、沼津市陸上選手権、天皇杯、高校総体、U15 中学生県大会、静岡学生選手権、社会人クラブ選手権、サッカー東部女子大会など）に加えて、昨年度からは高円宮プレミアリーグ（サッカー）、全日本一輪車競技大会の誘致、また今年度からサッカー沼津市U-12 全日本予選やサッカー高円宮妃U-18 静岡スルガカップを新規、再誘致している。これらの新たな試みによって、陸上、野球、サッカーなどの開催回数が中間目標値 25 回に対して 38 回の開催となっており、順調に回復し、またコロナ以前より活発化していることが理解でき、高く評価する。ただし、今年度の開催目標回数は昨年度実績より低い 50 回に抑えられている。これはグラウンドの使用頻度と芝生の品質向上とのバランスを取る目的ということで、今後もこの結果を見ながら最適な回数を見極めて行ってほしい。

大人向けの運動プログラムやイベントも引き続き充実化している。通常のヨガ、ピラティス、ランニング、ストレッチ、フィットネス教室、足の運動教室に加えて、誰でも記録会（小中〜一般対象）あしたか歩コースノルディックウォーキング、瞬発力向上トレーニングなど、公園の環境を活かした多彩なイベントを複数回提供している。また、サブスクリプションによる大人の健康スクールも開設され、6 競技が毎日実施されており、目標回数を大きく上回って充実したスポーツサポートサービスが提供されている。加えて、陸上競技の保護者のために栄養講習会も実施しており、多様な取り組みに挑戦している。これからも地域のニーズに応えつつ魅力的な取り組みを継続し発信して、地域の生涯スポーツ、健康促進の拠点としてレベルアップするよう期待したい。

また子供向けのプログラムとしては、あしたかミズノキッズクラブが定着しつつあり、競技数も 6 競技（陸上、サッカー、野球、テニス、卓球、ヘキサロン）から体操教室、ラグビーも追加され、また参加者も順調に増加しているとのこと。加えて、BDP キッズ教室未来のアスリート育成教室（全 10 回）も新たに開講されており、選択肢が増えている。

加えて、指定管理者の強みを活かしたプロ野球、ソフトボール、Jリーグ、陸上などプロのアスリートを招いたクリニックも引き続き開催され、多くの参加者を集めている。これらは子供にとって貴重な機会となるので、引き続きこのようなイベントを提供してほしい。

一方で、障がい者のための運動支援プログラムは昨年度には開催できなかったが、今年度は後半に 2 回の開催を予定しているとのこと期待したい。

B 自然と親しむ場の提供

[9段階評価] A⁺ A A⁻ B⁺ B B⁻ C⁺ C C⁻

春の見事な桜並木やホタルが鑑賞できるせせらぎの径はこの公園の貴重な資源であり、それに加えて、初夏のネモフィラ、一面ひまわりの花壇なども加わり、季節の変化を感じられる自

然豊かな環境へと年々成長している。維持管理もよくされており、公園全体の清掃も大変な作業になるが、なお雑草や落ち葉など処理管理に努めてほしい。

公園全体をスポーツと自然を遊びながら体験できる、場所の特性を活かしたウォーキングイベント（オリエンテーリング）を実施しており、今後も公園を一体的に活用するイベントを工夫してほしい。

また桜並木やせせらぎの径を活用したイベントやホタル観察教室、クリスマスリースや樹銘板づくり、ハンギングバスケットづくりの教室なども目標を上回って実施されており、スポーツプラスアルファのワークショップも徐々に始められて、幅広い来園者を増やす試みとなっている。またホタル観察教室はキッズクラブと連動して開催されており、スポーツでの来園者にも公園の自然に親しんでもらう取り組みとなっている。

C 地域との連携・協働

〔9段階評価〕 A⁺ A A⁻ B⁺ B B⁻ C⁺ C C⁻

昨年度からボランティア・コーディネーターを配置して、ボランティアの人材募集を継続している。ホームページの「お知らせ」で、今年度は「花壇づくり」に特化してボランティア募集の告知とチラシを配布している。花壇に関しては目標値1回を大きく上回り、アスクラロACと連携した鉢植え、園内の植栽など4回の実施となり評価したい。しかし、なかなかボランティア人数が増えない状況があるので、ホームページ上で随時募集している告知を常時出して募集を継続してほしい。キッズクラブや大人の健康スクールなどの参加者や、散歩の常連さんなど継続的な来場者への働きかけなどしてみるのも一つの手立てではないだろうか。

地域との連携という点では、従来からの地域との関係性を基盤にして、沼津市の花を増やす運動、沼津特別支援学校の出前苗植えや花壇づくり、アスクラロ沼津との協働など、行政、学校、地域のスポーツクラブとの多様な協働が実施されている。また、ホタル祭りでは沼津のホタル愛護団体と共同で開催するなど、新たな連携の取り組みも始まっており、参加者の幅が広がっている。今後も地元企業やスポーツ団体、公園使用者、イベント参加者などが気軽に参加できる機会を提供して地域との連携が更に深化することを期待したい。

D 利用者ニーズを踏まえたサービスの提供

〔9段階評価〕 A⁺ A A⁻ B⁺ B B⁻ C⁺ C C⁻

減免措置や器具の無料貸し出しなどの利用者サービスを通じて、陸上競技個人の減免利用者数、卓球台の利用者数が目標値の2倍程度に達し大幅に上回っている、また有料公園利用者数や無料公園利用者数もそれぞれ中間目標を上回っている。様々な工夫をこらしながら利用しやすい環境を整え、提供している指定管理者の努力を評価したい。

またグラウンドのコンディションをチェックするJリーグマッチコミッショナーピッチ点数も中間目標を上回っている。植栽の剪定、手入れなども予定通りの回数が行われている。

接客研修も目標を超えて実施され、来場者アンケートの結果でも接客対応が高評価を得ており、評価したい。

また、指定管理者によるトイレ周辺、フラッシュドア、照明器具の修繕など小規模な修繕は、中間目標を大きく超えており、その回数も年々増えており自助努力で速やかに対応されていて評価したい。突発的な対応は困難な点もあるが、今後も日頃から点検を徹底して予防的な措置も実施してほしい。

加えて、利用者アンケートの意見にどのように対応したかというフィードバックを管理事務所

ロビーに掲示して、相互のコミュニケーションツールとなっており、真摯な対応として評価する。同じくメインエントランスには、アスリートのサイン入りユニフォームやポスターを掲示、チラシの配架などにも工夫をこらして活気あるウェルカムな雰囲気を作り出しており評価する。

E 公園の魅力の広報

[9段階評価] A⁺ **A** A⁻ B⁺ B B⁻ C⁺ C C⁻

広報については、公園内の自然（公園内の季節の変化や四季折々の花、昆虫、眺望などの変化）やイベントの実施状況について、平日はホームページのスタッフブログが連日のように更新されており、タイムリーで細やかな情報発信が行われており評価する。ブログのタイトルも興味を引くように工夫されている。また記録会やオリエンテーリングなどの結果をその度毎にきちんとアップしてダウンロードできるようになっており、参加者にとって励みになると思われる。

新たな情報発信法として、公式インスタグラム及びスクール生のLINEを開設して、直近の情報共有などに役立っている。教室の参加申し込みもWEB対応可能となり、参加者にとっても指定管理者にとっても省力化になっている。

また沼津市広報、新聞のWEB版、地元の情報誌などへの掲載回数も目標値を上回っており、公園の魅力発信に貢献している。加えて、昨年開設されたLINEの登録者も、9月末時点で年間目標値を上回ってきている。このように様々なツール、メディアを活用して、より多くの人々がアクセスしやすい情報提供の充実化を目指していることは高く評価したい。

F 収益向上への取組

[9段階評価] A⁺ **A** A⁻ B⁺ B B⁻ C⁺ C C⁻

令和5年度上期（8月末時点）の全体の売上実績は昨年比約132%となっている。これは多目的競技場の照明LED化によってJリーグナイター開催があったのが大きな要因ということである。また野球、サッカー、スポーツ広場の使用予約が増加していることにもよる。ただし、スポーツ広場の投光器の利用時間は目標値に達しなかったため、今後は需要を把握しながら有効な活用を目指してほしい。

自主事業の収益も昨年度上期より約6割増と大きく伸びている。これはスポーツ教室の増加と会員数の増加に加えて、記録会やJリーグとのコラボなどのイベントを増やしていること、また物販コーナーの開設、自販機の増設など様々な工夫によるもので高く評価する。

G 安全・安心で快適な施設の提供

[9段階評価] A⁺ **A** A⁻ B⁺ B B⁻ C⁺ C C⁻

野球場利用後のグラウンド整備と転圧作業、及びマウンドやバッターボックスのリセット作業や使用後の刈り込みは目標を大きく上回り積極的に実施され、視察に伺った時もセンターの

定位置が他と変わらない緑の状態になっており、その芝生の管理状態は高く評価する。多目的競技場ではサッカー特有の損傷箇所の補修及び張替え作業なども週平均2回（目標値2.5回）行われていることに加えて、ライン位置を頻繁に変えたりして丁寧に取り組まれている。ただ一方で、繰り返しになるが、アンケートの要望にも散見されるように、引き続きターフをできるだけ良好な状態を保つために使用頻度と維持管理とのバランスを取る方法や、スケジューリングを検討する必要があるだろう。

また、日常的なパトロールや点検を通じて、清掃、ベンチや柵などの軽微な修繕、点字ブロック、園内道路の白線の修繕などが目標値を超えて行われており評価したい。

防災対応、顧客満足度向上のための各種研修もしっかり行われている。特に顧客満足度向上教育研修に関しては指定管理者（ミズノ本社）主導により目標値が3回のところ16回実施されており、これがアンケートにもある接客のポイントが高いことにつながっており、高く評価したい。今後も継続的に行われるように期待する。

なお、5月3日のJ3リーグの試合中に起こった手すりの破損と観客の落下事故については、指定管理者は主催者と調整のうえ十分な安全対策と注意喚起を行っており、公園側の瑕疵はなかったということで、日頃の安全対策の賜物と安心したが、指定管理者はメディア対応でもかなりの時間が費やされたということだった。十分な安全対策を施していても不測の事態が起こってしまうことがあるので、なお注意喚起を徹底してほしい。

4 静岡県富士山こどもの国

● 評価の総括

[9段階評価] A⁺ **A** A⁻ B⁺ B B⁻ C⁺ C C⁻

新型コロナウイルス感染拡大に見舞われた2020年1月以来、感染防止のため、事業の休止・縮小を余儀なくされたが、2023年においては、5月に感染法上の位置づけが5類に移行し、以降、人々の活動もほぼ平常時に戻った感があり、入園者数は前年を上回る伸びを見せていた。しかし、この夏の猛暑や8月の悪天候・台風の影響、ガソリンの高騰による遠方からの来園者減で、上半期の入園者数は、前年を上回ったものの、目標値には届かなかった。

自然を活かした公園である以上、気候変動によるリスクへの対応は不可欠である。急な雷雨等による来園者の避難場所の必要性などが利用者アンケートで要望されていた。対応願いたい。

季節感のある事業・イベント、日常生活では体験できない農作業やものづくり、動物とのふれあい、自然観察などの体験は、こどもはもとより、年齢に関わらず、自然豊かな環境を活かし、〈五感〉で楽しんでいただける時間を提供できたと言える。

事業の実施にあたっては、多くの団体・機関等と連携し、事業やイベントの企画・運営に努められたことも評価できる。また、平日の利用や、園内・園外の移動手段の運用・広報の見直し・充実などにも取り組まれた。

利用者アンケートも、満足度が4.59と高く、車で来場する子育て世代のリピーターが多いことから、現在実施されている事業の目的は概ね達成されている。

● 改善事項

富士山こどもの国の公園は、富士山麓の雄大な自然の中で、「遊ぶ」「学び」「育む」「交流」できる場として開設され、現在に至っている。今後は、これまでの取り組みを検証しつつ、時代のニーズに合う「雄大な自然と公園の特性を生かした事業」に取り組み、来場者数増を目指したい。

静岡県の施策の方向性（観光振興、スポーツ振興、生涯学習振興、伝統・生活文化の継承など）を認識しつつ事業展開を図っていくことは、今後の運営にあたって必要であると考えます。

指定管理者と地域団体やボランティアとのネットワークを基盤に、多種多様な事業やイベントを創出された。惜しむらくは、実施された事業数とは別に、個々の事業の参加者数とその反応はどうだったのかが分かりにくいことである。

利用者視点からの評価や反応から、事業を取捨選択し、力を傾注していくことは肝要と考える。例えば、①ファミリー層・シニア層・その他の来場者別、利用日別に、人気のある事業はどんなものか、②リピーターにとっては、こどもの国のどのような点が他の公園・施設と比べて魅力的なのか、③キャンプ事業の人気理由と、充実を図るポイントはどこか、など。

今後は、検証から導かれた自他ともに認める強み（富士山、地元産品、マウンテンバイク、動物、自然など）を、楽しく体験・体感できる「しかけ」と「案内」の充実が求められる。

例：富士山ビューポイント案内（マップ）とサイン設置＋富士山の季節・時刻別の豊かな表情を捉える定点撮影写真の撮影（写真愛好家の参加）と写真展示の工夫＋情報発信。

車での来場手段がない層についての交通手段や、園内移動機関についても、引き続き、来園者の多様化の具体策の一環として検討を期待したい。宿泊施設を活かした事業展開についても、専門性の高い団体との協働等で検討を進められたい。

● 機能別の評価

A 自然を活かした多様な遊び、夢や冒険心を育む遊び場の提供

〔9段階評価〕 A⁺ A A⁻ B⁺ B B⁻ C⁺ C C⁻

水の国でのホタル放流と観賞会、ニジマスイベントや水上ゴザ渡りなど水辺の人気事業、自然観察会（何でも”感”察隊、昆虫観察会等）、里山教室では5つの体験コース、など新規事業の展開やイベントの充実に取り組んだ。

MTBのレンタル台数増や上級者コースの新設、講習会も好評を得た。プレイリーダーの育成も、随時行った。

公園の特性を活かしたディスクゴルフ講習会やクロスカントリーコースを活かした事業・大会などを実施し、多くの参加者の利用があった。

宿泊者に対して、ホタル観賞会などを実施し、公園の魅力アップに務めた。一方、グランピングの実施はなかった。

B 生命の尊さや自然の豊かさを学ぶ場の提供

〔9段階評価〕 A⁺ A A⁻ B⁺ B B⁻ C⁺ C C⁻

自然観察会や里山教室、サツマイモの苗さしやトウモロコシの収穫体験、はるかひまわりプロジェクト、ホタルの放流と鑑賞会、地球環境史ミュージアムの出前博物館（展示）等を目標通り実施。動物広場での動物とのふれあい・体験なども、保育園・幼稚園の団体利用を含め、多くの利用者があった。

公園の自然環境に親しむための、季節の草花・園内に生息する鳥類の紹介パンフレット、樹木への名札設置、雰囲気合った案内サイン、一休みベンチの設置などにも取り組まれた。実施した内容（質や量）とその効果を検証し、更なる充実に期待する。

C 地域や利用者の方々が交流できる場の提供

〔9段階評価〕 A⁺ A A⁻ B⁺ B B⁻ C⁺ C C⁻

地元高校（富士市立高校）による駄菓子や雑貨の販売（吉商本舗）活動の場や、家庭の日に「こどもの国マルシェ」を開催し県内で活躍するアーティストや飲食店の活動の場を提供した。販売の三島市の協力で県内の市町の人・もの・文化等を紹介する「地域フェア」を開催した。

地元お茶園との連携により県の名産品を紹介した「お茶フェスタ」、駐車場を活用した地元企業とのコラボ「はたらくるま乗車体験」、近隣愛好家の協力による「鉄道の日イベント」などを開催した。こうした、地域との様々な連携によるイベントの会場として提供することにより、多くの来場者の交流の場となった。

また、ゴールデンウィークなどのイベントは、地域の活動団体・チアダンスチーム・高校の吹奏楽等の発表の場ともなっている。

さらに、シニア向けにノルディックウォーキング教室を月1回開催し、園内の植物や昆虫の自然観察会も実施した。加えて、高校生から実業団の陸上部向けのクロスカントリーコースのトレーニング利用やランニングイベントの実施など、多世代にわたる、利用や交流を推進する場を提供した。

D 地域との連携・協働

〔9段階評価〕 A⁺ A A⁻ B⁺ B B⁻ C⁺ C C⁻

C（前項）の事業の開催にあたり、行政（市・警察・消防・自衛隊等）・地元企業・商店・高校・住民（愛好家・アーティスト・ボランティア等）の連携・協力を得られて、実施された。ボランティア・地域人材の参加については、目標を大きく上回る実績となっており、多種多様な団体と協力した事業の実施、プログラムの提供がなされた。

また、県内外からの小中高等学校・幼稚園・保育園の行事利用も促進している。利用団体側からの感想・利用目的とその達成度なども丁寧にリサーチし、利用満足度を高めることでリピート率の向上につなげ、情報発信することで利用団体の誘致につなげる効果を狙いたい。

今後は、参加者数や年齢層の分析を行い、効果的な実施時期や方法、広報手段を研究されることにより、来園者増につなげていく可能性があると考えている。

E 利用者ニーズを踏まえたサービスの提供

〔9段階評価〕 A⁺ A A⁻ B⁺ B B⁻ C⁺ C C⁻

利用者のニーズに合った利用時間の設定については、GW・お盆・秋の三連休の中日などに、臨機応変に対応した。

案内看板等は計画数を充たしており、園内パンフレットの見直しと案内看板の増設、入園ゲートにインフォメーション看板の設置、スマートフォンから検索できる「本日の運営状況のページ」作成、SNSによる園内の情報の投稿など、来場者に対する園内の情報の提供の充実に努めた。

令和4年9月に園内一部で導入したキャッシュレス決済についても、令和5年7月からほぼ園内全域の施設でクレジットカード・電子マネーが利用可能となった。これに伴い、無料WiFiサービスの導入を開始した。利用者アンケートの声からも更なる拡大を期待する。

定期利用者アンケートは、計画通り実施した。評価の低かった項目は、施設の老朽化が影響していると思われる。トイレについての改善は、レジャー施設の利用満足度につながる大きな要素である。引き続き、洋式化・ウォシュレット設置を含め、トイレ環境の整備は、優先的に取り組まれない。

F 公園の魅力の広報

〔9段階評価〕 A⁺ A A⁻ B⁺ B B⁻ C⁺ C C⁻

SNSの活用、マスコミへのプレス、ウェブメディア、Web広告や新聞広告による情報発信に積極的に取り組んだ。従来の案内パンフレットは、「来園を誘う目的で作るパンフレット」と「来園した方に分かりやすく園内の情報を伝えるパンフレット」に分けて、編集を行い、情報の受け手を意識して、内容を分かりやすくしようと努力されたことは評価できる。しかし、来園者用パンフレットは、初めての来園者には、公園側の思いや意図が伝わりにくいのではないかと感じる点があるので、もう一工夫をお願いしたい。

情報の受け手が、必要とする内容と受け取りたいTPO（タイミング・場所・場面）に配慮し、来園者にとって必要な情報とそれ以外の情報を分けて、扱い（説明に有無・字の大きさ・色の濃さ、イラストの精査）に強弱をつけると、必要な情報にアプローチしやすくなる。

例）＊平日の利用者のための通年楽しめる園内案内

- *自然を楽しみたい来園者のための案内（クロスカントリーコース・植物・野鳥等）
 - *季節ごとの特別なプログラムを楽しめる園内案内
- 但し、富士山のビューポイントはどの案内地図にも掲載することを提案する。

G 収益向上への取組

〔9段階評価〕 A⁺ A A⁻ B⁺ B B⁻ C⁺ C C⁻

アウトドア宿泊施設の利用件数は、8月の猛暑や台風の影響を強く受け、目標件数を下回った。自然の中の施設においては、避けられないリスクである。今後は、こうした自然現象も想定した施設運営が求められるのではないかと考える。

レストランのメニューも季節限定・地場産品を取り入れ、デザートも工夫を凝らした。さらにレストランの魅力向上に向けて、テーブル・イスの配置の工夫による空間の演出、食器と料理の組み合わせによる見栄えの向上、材料の由来の表示（ポップなデザインなど）による地元食材PR効果の創出など、女性視点を意識した感覚に訴える工夫が求められる。

売店で扱う品物については、園内イベントで好評だった品物（アーティスト作品・地元産品・マルシェ関連商品など）を、イベントに参加できなかった来店者にも、地元の特産や名物を楽しんでいただけるような、期間限定販売等を地域連携の中で検討されることを期待する。

H 安全・安心で快適な施設の提供

〔9段階評価〕 A⁺ A A⁻ B⁺ B B⁻ C⁺ C C⁻

施設・設備ともに経年劣化が激しいため、日常点検・定期点検で異常箇所を早期に発見し、特に耐用年数が経過している施設・設備については、積極的に点検・補修することで、安全確保に努めている。ユニバーサルデザインについても、サイン・ベンチ等の修繕・新規設置も目標以上に実施された。

広い園内で、様々な事業を安全・安心に実施していくため、日常の点検・修繕・維持管理等に組み込まれていることは高く評価する。

今後も、お客様に安心して楽しんでいただけるよう、施設・整備の長寿命化を図りつつ、公園緑地課と協議を行い、必要な措置を講じられたい。

5 小笠山総合運動公園

● 評価の総括

[9段階評価] A⁺ **A** A⁻ B⁺ B B⁻ C⁺ C C⁻

2023年5月から新型コロナウイルスの感染症法上の位置づけが2類相当から5類へと移行したこともあり、公園利用者数は中間目標731,700人に対して、実績639,653人であるものの、前年比では33%増と順調に回復している。

不特定多数の参加が前提となる各種イベントも実施が可能となり、令和5年度は積極的にチャレンジする年との位置づけが功を奏していると言える。特に、未来につながる利用者である子どもを対象とする自主事業の実施が特徴的である。こうした子どもを対象とした取り組みでは、遠足・社会科見学など校外活動の誘致が中間目標の開催件数5件・利用者数200人に対して、上半期の中間実績では開催件数16件・利用者数691人と大きく上回っている。

前年令和4年度外部評価報告書で指摘した「県内メディアとの連携」・「地域密着の向上」に関しても地元新聞社へのアプローチや地元中学校からの職場体験の受け入れなど積極的に行い、改善が図られている。

その結果、1次評価（中間実績）の数値は令和4年度の3.5に対して令和5年度は3.6と上昇している。今後は、現在検討中である袋井市のふるさと納税の1つとして「スタジアムの施設利用」の権利の活用などを期待したい。

● 改善事項

評価の総括でも触れたが自主事業に関して令和5年度は積極的に取り組んでおり、前年度までに無い新たな取り組みが行われている。

こうした自主事業は指定管理者側でまず企画案を出し、それをイベントなどの専門会社との協議を通じて具体化している。そのため、新たな事業を行うためには、指定管理者側でのアイデア出しが重要になる。今後、さらにクリエイティブな企画を行うためには外部研修の受講や大学生などを対象としたプロジェクト型のインターンシップの導入、地元企業との協業などが望まれる。

一方で定例のイベントでは、健康エクササイズなど目標に対して十分な成果が出ていないものも存在する。こうしたイベントに関しては、PDCAサイクルを活用し原因の追求と内容の改善などが必要である。

● 機能別の評価

A 県の頂点となる大会の開催（国際大会、全国大会、県大会等）

[9段階評価] **A⁺** A A⁻ B⁺ B B⁻ C⁺ C C⁻

エコパスタジアムで行われる運動競技には大きく陸上競技、ラグビー、サッカーの3種目がある。まず陸上競技では定例の5月の「静岡国際陸上」、8月の「東海選手権・陸上大会」に加えて、4年ごとの6月の「東海高校総体・陸上競技」を実施している。利用者数は前回（令和元年度）の9,900人に対して今回は8,000人であるが、前回はコロナ以前という状況を踏まえると一定の評価ができる。

次にラグビーでは、4月のリーグワンでのリーグ戦、6月の静岡ブルーレヴスのファン感謝イベント、9月の関西の大学リーグ戦など試合やイベントの開催が恒常化している。リーグワンのリーグ戦での利用者数は4,200人と前年同様4,000人台を維持している。

最後にサッカーであるが、県高校総体決勝戦の利用者数は前年3,600人から本年12,200人と大幅に増加している。

今後この3種目を中心に、さらなる役割を期待したい。

B 地域利用・多目的利用の推進

[9段階評価] A⁺ **A** A⁻ B⁺ B B⁻ C⁺ C C⁻

今年度も浜松市内の中学校の「校内体育大会」や県立高校の「体育大会」の実施が継続的に行われ、活用している学校数も合計2校から3校へ徐々にではあるが増加し、浸透していることがうかがえる。また修学旅行の一環としてのスタジアムツアーの実施も継続されている。今後は教育委員会などを通じてアナウンスを強化し、さらなる活用校の増加を目指したい。

スポーツ関連では、ラグビースクールが中間目標の開催数50回・利用者数350人に対して、実績では開催数56回・利用者数435人と大きな成果を上げている。他のスクールなどへの横展開も視野に入れ、要因の分析を進めたい。

一般的な使用では、会議室などの利用が中間目標の誘致件数300件・利用者数5,000人に対して、実績では誘致件数320件・利用者数4,766人と好調であり、スポーツ関連以外の使用も浸透してきている。

C 地域・企業との連携・協働

[9段階評価] A⁺ **A** A⁻ B⁺ B B⁻ C⁺ C C⁻

アフターコロナで各種の大型イベントが復活するなか、4年ぶりに「ふくろい遠州の花火」(7月)が開催され、以前同様に駐車場の提供が行われた。利用者数も前回6,200に対して今回は6,800と増加しており、地域住民の需要に大きく応えている。

さらに、5年ぶりに開催された「ap bank fes '23 ?社会と暮らしと音楽と?」(7月、静岡掛川市つま恋)へも駐車場の提供が行われた。開催3日間で約9万人を動員する大型音楽イベントである。駐車場利用者数は12,800人であり、周辺の交通状況などの影響緩和に一定の貢献が果たせたのではないかと、と言える。

D 利用者ニーズを踏まえたサービスの提供

[9段階評価] **A⁺** A A⁻ B⁺ B B⁻ C⁺ C C⁻

スポーツにおける令和5年度の最大のイベントは「ラグビーワールドカップ2023 フランス大会」である。前回2019年大会で「静岡ショック」(日本代表対アイルランド代表)をもたらしたこともあり、相当関心が高く、10月8日に日本代表対アルゼンチン代表のパブリックビューイングをレセプションルームで実施している。残念ながら27-39で日本代表は敗れ2大会連続の決勝トーナメント進出はならなかったが、ラグビー熱の維持には貢献したと言える。

こうしたスポーツにおける国際化という点では7月開催のブラジル人オリンピックの実施にも触れておく。このイベントは全国のブラジル人学校に通う生徒らによるスポーツ大会であ

り、利用者数は3,300人とコミュニティ間の交流促進につながったと言える。

E 公園の魅力の広報

〔9段階評価〕 A⁺ A A⁻ B⁺ B B⁻ C⁺ C C⁻

WEBサイトのアクセス数は、中間時点で月平均実績が前年の各月実績対比80%台ではあるがInstagramの本格的な利用が進んでおり全体としてITによるプロモーションが進展している。とりわけInstagramではフリーマーケットの募集情報やキッチンカーの出店調整にも活用されている。フリーマーケット自体も猛暑の影響で利用者数が計画比の約12%減となるなか、前年実績比は約33%増であり、Instagram活用の今後に期待できる結果であった。

また既存の広告媒体ではTVCMが前年0本から中間時点で約120本、ラジオCMが前年44本から中間時点で約130本と積極的に活用されている。

さらに収益以上に集客や認知に力点を置いた新規事業として10～11月に「エコパで宝探し」が実施されている。実施内容は受付でパンフレットを入手し、それに沿ってスタジアム内で謎解きゲームを行い、ウォークラリーするものである。また朝の全国放送の番組に出演するピアニストによる「おとの和コンサート」（10月）も実施されている。

今後はこうした新旧の広告媒体、リアルなイベントを通じた広報活動の相乗効果の検討が望まれる。

F 収益向上への取組

〔9段階評価〕 A⁺ A A⁻ B⁺ B B⁻ C⁺ C C⁻

中間時点では、収入が計画比2%増であるものの、2023年12月～2024年2月にアリーナの内部工事の影響でコンサートの実施が前年17アーティストから14アーティストへ減少するため、苦戦が予想される。アリーナではなくスタジアムを用いる大型コンサートとして35周年のメモリアルイヤーである国民的人気アーティストB'zのスタジアムコンサートが実施されるが、これだけカバーできるかは不透明である。

さらに中間時点で光熱費が計画比に対して約30%増加しており収支差は計画を下回っている。収入増やコスト削減が難しく、自助努力で克服することが困難であり、県からの積極的なサポートが必要である。

G 安全・安心で快適な施設の提供

〔9段階評価〕 A⁺ A A⁻ B⁺ B B⁻ C⁺ C C⁻

定期的に半期に1回の防災訓練が実施されている。具体的にはシフト勤務を踏まえ、役割を固定化せず、また複数の役割を担当できるような内容となっている。2024年1月に発生した能登半島地震もあり、今後も防災意識の向上は重要であるため、さらなる精度を期待したい。

また他施設でのトラブル報道や水辺での事故報道などを受けて、競技場や公園内の該当箇所の点検など日常的な整備の実施もされている。こうした日々の改善活動の継続も期待したい。

6 吉田公園

● 評価の総括

[9段階評価] A⁺ A **A⁻** B⁺ B B⁻ C⁺ C C⁻

来園者数は、大型イベント（頂）が台風で中止になった分少なくなっているが、経常的な来場者数は例年並みである。「花や緑に親しみながらレクリエーションや憩いの場として、誰もが安心して利用できる場を目指し、新しいスタイルの県民参加の公園運営を目指す。」という公園設置の目的を考えると来園者数は大型イベントの来場者数を除いて判断する方がよい。今年度は酷暑の影響もあったが、例年8月は来場者が減る傾向にある。この時期に何らかの工夫が必要と感じる。

公園の管理については、芝や樹木の管理等広大な敷地に対し行き届いた管理が行われていることに敬意を表したい。

ただ、使用されていないちびっこ広場の噴水・水遊び場や犬・猫のフンなど公園の雰囲気や損なう要素もあり、改善が望まれる。

旅する蝶「アサギマダラ」は、のぼり旗によるPRなどもされ吉田公園の目玉となりつつある。一方、ビオトープ池は野鳥の観察ポイントなど大きなポテンシャルを持ちながら十分にその魅力が生かされていない印象を受ける。新型コロナウイルスの影響も一段落して、かつての日常が戻りつつあるので今後の展開を期待したい。

経営的には電力料金・燃料費の高騰、最賃上昇による人件費の高騰が収益を圧迫しており、委託費の見直し等行政としての配慮が望まれる。

● 改善事項

昨年度、改善事項として挙げた「売上向上と財務内容の改善」については、自動販売機の3台増設等によりやや改善の兆しが見えるが、公園利用収益・施設利用収益については、昨年度の外部評価における改善事項として、平成29年度実績（両者合計約1千万円）を目標値とさせていただいたが、達成は厳しいものと思われる。コロナ禍も去りつつある現在、積極的に各種イベントの開催、公園・施設利用の誘致に取り組んでいただきたい。従来から改善事項として挙げられている「喫茶サービスの充実」「ボランティアの高齢化問題」は、未だ解決には至っておらず継続して改善努力をお願いしたい。今年度新たにお願いしたい改善事項は2点ある。

第1点は、「ビオトープ池の有効利用」である。比較的来園者の多い土曜の午後に、ビオトープ池周辺の来園者の動きを観察させていただいたが、ちびっこ広場側・安らぎの庭側それぞれのビオトープ池の入り口でUターンして戻って去ってしまう来園者が多く見受けられた。ビオトープ池の小道に草が鬱そうと生えていて通りにくいことに加え、小道に並行している側道からビオトープ池が見えにくく、何か近寄りたがたい雰囲気（寂しい感じ）を受けてしまう。池に遊ぶ野鳥など本来公園の目玉となるべき魅力のあるゾーンだけに、小道の整備や導線の案内表示などにより有効活用を図っていただきたい。

第2点は、「来園者の震災に対する不安の払しょく」である。吉田公園の立地を考えると、正月に起きた能登半島地震による地震・津波に対する恐怖感・警戒心は来園者数の増加に影響を与えることが予想される。来園者の安全を確保するため災害時の避難行動について正確な情報提供を行い来園者の不安感を払しょくできるよう努めていただきたい。

● 機能別の評価

A 花や緑に親しむ機会の提供

[9段階評価] A⁺ **A** A⁻ B⁺ B B⁻ C⁺ C C⁻

広大な敷地の芝生・樹木の管理については、委託料削減のため令和3年度より外部業者への委託業務一括契約を継続している。業務委託エリアと直営エリアを明確化し漏れのない適切な施工管理が求められているが、「管理区分表（吉田公園における緑地用維持管理の考え方）」により自社施工作業と外注作業の区分の明確化を図っており、芝生管理と樹木管理の外注部分については、年間スケジュールを詳細に決めガントチャートで適正に管理されている。自社施工作業については自動芝刈り機、草刈り機を女性職員でも使えるよう教育し、作業の負担軽減、省力化を進めている。アンケート結果からも芝の状態もよく、樹木の管理も行き届いている様子がうかがえる。

「園内の各エリアの特色を生かした緑地空間の提供」という点に関しては、野鳥観察等見どころの多いビオトープ池が十分に生かされていない印象を受ける。ポテンシャルはまだあるので、導線・案内表示の工夫、雑草の除去による見晴らしの良さの確保等の改善が望まれる。

当公園の目玉の一つであるアサギマダラは、昨年度より産卵・孵化に取り組んでおり、当公園で生まれ育ち飛び立っていった蝶もいるとのことなので、よりストーリー性のあるPRに努めて欲しい。アサギマダラゾーンにあるフジバカマも特別な由来があるようなので、併せてPRが望まれる。

アンケートでは、昨年度同様「樹木・花に名札を付けて欲しい」との声が多く聞かれたので対応をお願いしたい。

「花や緑に親しむイベント・プログラムの実施」については、たねダンゴの植栽が定着し、新規参加者が半期で14団体と目標を大きく上回ったことは評価できる。

B 地域住民の利用促進

[9段階評価] A⁺ **A** A⁻ B⁺ B B⁻ C⁺ C C⁻

イベント誘致は、音楽イベント「頂」が台風の影響で中止になったが、「みどりのオアシスマつり」「吉田野営」「クラフトフェア」が開催された。外部イベントの誘致は、単なる会場提供に留まらず来場者に吉田公園の魅力を知ってもらうよい機会ととらえていただきたい。

地域住民が参加できる自主イベントとして、「チューリップまつり」「お月見コンサート」「ハッピーハロウィン」「かかしづくり」が開催された。また、「園芸ミニ講座」「さつまいも植付け&収穫体験」「花壇コンクール」等の公園本来の目的である花や緑に親しむための小規模イベントも企画された。

経常的な来場者数は、ほぼ例年並みであるが、乗合バスの乗り入れによりアクセスが良くなるのは好材料であり、今後の利用客増に期待がかかる。

C 地域との連携・協働

〔9段階評価〕 A⁺ A A⁻ B⁺ B B⁻ C⁺ C C⁻

ボランティアの育成・活動支援については、「新しいスタイルの県民参加の公園運営」という吉田公園の設置目的において重要な課題と考えられる。ボランティアの延べ参加数は、ほぼ昨年並みであるが、登録者数は42人から38人に減少している。

ボランティアの減少・高齢化は重要な課題であり、参加率の高いボランティアへの感謝状の贈呈やインセンティブの付与などモチベーション向上の工夫、サークル活動感覚で若い人や親子が気軽に参加できる雰囲気づくり等が望まれる。また、活動状況をSNS等で積極的にPRし、ボランティアの登録者数を増やすよう努力していただきたい。

地域連携については、吉田特別支援学校生の作業学習や吉田中学校の職業体験、幼稚園・小中学校・英語教室・老人施設等の遠足の受け入れなど数多く行われ、十分な連携が図られている。

D 利用者ニーズを踏まえたサービスの提供

〔9段階評価〕 A⁺ A A⁻ B⁺ B B⁻ C⁺ C C⁻

案内看板は、新たに3基が設置された。アサギマダラをPRするのぼり旗も複数設置され、利用者の利便性が図られている。一方で、アンケート結果を見ると、樹木や花の名札・名前カードを望む声が多く聞かれる。季節ごとの「フラワーマップ」に対応して樹木や花の名前が確認できれば、回遊する楽しみも増すと思われる。知ることにより得られる満足感は大いいため、公園のコンセプトである「花や緑に親しむ」機会を提供するという意味でも広大な植物園を目指し、早期の対応をお願いしたい。

アンケートでは、小さな子供を遊ばせる遊具の充実を望む声が多く聞かれている。展望滑り台も一部破損した箇所が見られる。ちびっこ広場の噴水・水遊び場も使用を中止している。夏場はこれらの施設は魅力的である反面、使用されていないと汚れ等も目立ち公園の雰囲気を損ないかねないので、早期の改善が望まれる。

ファミリー層の固定客をつかむうえでは、遊具や水遊び場等の充実は欠かせない。静岡市の広野海浜公園など、子供に人気の公園を参考にしていきたい。

喫茶サービスの充実も長年の課題となっている。一昨年オープンした「シダベジカフェ」は、土日祝日のみの営業であるが、採算性を考えるとやむを得ないところか。メニューは充実しているが認知度が今一つという印象を受けるので、積極的な周知が必要である。また公園の特性を考えると、ドリンクや軽食のテイクアウトを充実させ、公園内のベンチやテーブルなどのオープンスペースで飲食するスタイルをPRする方法も一考していただきたい。

また、イベント開催時はキッチンカーの誘致などで対応を図っていただきたい。

E 公園の魅力の広報

〔9段階評価〕 A⁺ A A⁻ B⁺ B B⁻ C⁺ C C⁻

広報活動については、上半期は10件（テレビ6件、GOTO掲載1件、雑誌等掲載3件）と昨年並みの実績であった。提供する情報は、来園者のニーズをとらえるとともに、吉田公園の特徴・魅力が伝わるよう内容を充実させていきたい。

ホームページ、ブログ、インスタグラム等も活用して情報発信を行っている。ブログ、イン

スタグラムはよく更新されているが、どれだけのユーザーに届いているのかを検証するため、インプレッション数（投稿がどれだけ見られているか）やエンゲージメント率（投稿に対してどれだけの反応があったか）を把握して分析し、より効果的な情報発信に努めて欲しい。また、「月ごとの見どころ・イベント」チラシのQRコードからインスタグラムへアクセスしにくいので改善が望まれる。前回は指摘したが、SNSによる情報発信は、自らが発信するというより来園者に情報発信してもらう方がより効果的であることから、園内のインスタ映えするスポット等の紹介などの仕掛けを行うことも検討していただきたい。

また、来園者に対してもチラシや案内看板等で来園時以外の季節の見どころを紹介し、別の季節に再度訪れてもらえるようリピーター化を目指したPRが行えればなお良いと思う。

F 収益向上への取組

[9段階評価] A⁺ A A⁻ B⁺ **B** B⁻ C⁺ C C⁻

上半期は、自動販売機の3台増設等により1,102千円（前年比495千円増）の黒字となった。下半期は「お月見コンサート」などの有料の自主イベントも企画され、さらなる収益増が期待される。

新型コロナウイルスも感染法上の取扱いが5類となり、感染状況も終息しつつあり、消費者マインドもコロナ以前に戻ってきたことから、各種イベントの復活による公園利活用・施設利用事業収入の回復に期待したい。

一方で、電力料金・燃料費の高騰、最賃上昇による人件費の高騰が収益を圧迫しており、委託費の見直し等行政としての配慮が望まれる。

G 安全・安心で快適な施設の提供

[9段階評価] A⁺ **A** A⁻ B⁺ B B⁻ C⁺ C C⁻

レイズドベット付近の歩道部分のインターロッキングの隙間から生える雑草を除草剤で処分するとともに高圧洗浄を行い、「見た目と安全性の確保」に成果を上げている。これにより車椅子での通行も容易になるなど、車椅子利用者に対する配慮は大いに評価できる。

「快適な施設の提供」という点では、アンケートにおいて犬・猫のフンに対する苦情が多く聞かれた。せっかくきれいに整備された公園でも、これらが散見されると非常に不愉快な思いを抱き印象が悪くなってしまう。公園管理者の責任というより、利用者のモラルの問題ではあるが、ホームページや案内パンフレット、注意看板、場内放送等でモラルの徹底を呼びかけていただきたい。

また、先日起きた能登半島地震により、改めて地震・津波に対する恐怖心・警戒心は増している。吉田公園の立地を考えると、震災に対する利用者の不安をどのように取り除き安心感を与えることができるかが利用者拡大に向けて今後重要なポイントとなる。

想定される津波の高さ、津波避難場所（命山）の安全性、避難経路表示などを園内看板等で分かりやすく表示するなど、万が一の事態が生じた場合に利用者が判断に迷わないような情報を提供することで利用者の安全確保・不安感の払しょくに努めていただきたい。

7 浜名湖ガーデンパーク

● 評価の総括

[9段階評価] A⁺ A **A⁻** B⁺ B B⁻ C⁺ C C⁻

今年度は、「浜名湖花博 2024」準備のため、実行委員会との調整、開園中の工事及び令和 6 年 1～3 月の全面休園と管理運営で従来と異なる対応を求められる 1 年となった。目標設定の変更を行ったが、実施内容、利用者数、利用者満足度等に多少の影響があった。

5 月には新型コロナウイルス感染症の 5 類感染症移行により、約 3 年間続いた様々な行動制限がなくなり、利用者にとって必要以上に神経質にならずに楽しめる環境が戻ってきたと言える。本施設では、指定管理者が「安心・安全第一」で、利用者ニーズを捉えた適正な管理運営を行っており、春、夏、秋に開催する季節毎のイベント、花の鑑賞、自然に親しめる憩いの場として、その価値を発揮できたことを評価する。

この数年の実績を見ると、本施設は、コロナ禍も多く利用され、かつ県営公園の中でもコロナ前への戻りが早いことは明らかである。利用者アンケートでは、昨年度にはほとんど見られなかった「団体旅行で訪れた」という回答が増え、家族だけではなく、知人・友人、団体旅行でも楽しめる場として、再び利用されていると考えられる。

2004 年の花博以来 20 年もの間、本施設を支えてきた「ボランティア」の高齢化は課題ではあるが、指定管理者は、募集告知を広げ、SNS（YouTube 動画を含む）やホームページでの活動紹介に積極的に取り組んだ結果、少しずつではあるが新規入会者の獲得に繋がっている。ボランティア向けの講習会や、他公園への研修旅行は、ボランティアのモチベーションアップや、友人・知人の紹介にも繋がる施策として評価したい。

「花博 2024」の開催により、老朽化した設備のメンテナンスが行われ、時代にマッチした公園の姿にアップデートされることを期待したい。一過性のイベントとしてではなく、開催期間中に行われる様々な実験を今後の公園管理の参考にし、県と連携して、レガシーとして受け継げるものは積極的に活用することを指定管理者に期待する。

機能別に評価に記載した通り、気温上昇による影響、園内移動手段、公園のデジタル化は短期～中期的課題となるため、継続的な情報収集と検討をお願いしたい。

● 改善事項

・暑さ対策

これまでも日影を求める声はあったが、今後も 2023 年同様の夏期の猛暑や早期（5 月頃～）の気温上昇の可能性が考えられることから、室内の有効活用、開場時間の前倒し、テント設置等、暑さ対策を検討いただきたい。

・ボランティア募集

新規入会者の獲得のため、「花博 2024」の場を活用したボランティア募集

・コンテンツの活用（花まわり）

ホームページには「花みごろ」「園内植物図鑑」といった花情報が充実しているので、花・樹名板の補完として、園内の各所（人の多い箇所）にホームページへの誘導案内の告知

● 機能別の評価

A 憩いの場として、多彩な花・緑との出会いの場を提供

[9段階評価] A⁺ A A⁻ B⁺ B B⁻ C⁺ C C⁻

今年度は「花博2024」の準備が開始したことから、「ふれあい花壇づくり」、「木名板・花名板の設置」については実施されなかったが、人気の高い「花の美術館」や季節毎の花と触れ合える「花ひろば」、その他の施策については中間目標通りに実施され、適正な管理が行われた。行動制限がなくなり、「園芸教室」「体験教室」や「自主イベント」「自主事業」は、実施回数、利用者数ともに目標以上の結果となったことを評価したい。

ボランティアの急な退会によりガーデンツアーの実施数・参加者数が減ってしまったことは残念であり、利用者にとって魅力あるツアーが今後も継続できるよう、新たなツアーガイドの育成を期待する。

B 多様なレクリエーションの場の提供

[9段階評価] A⁺ A A⁻ B⁺ B B⁻ C⁺ C C⁻

新型コロナウイルス感染症の5類感染症移行に伴い、家族・友人以外の集まりへの心理的ハードルは下がり、コロナ前に近いところまで行動が戻ってきたと考えられることから、趣味・サークル・団体イベントや健康プログラムの利用者数は目標を上回った。

春には子供連れのファミリーに人気がある「子供広場」の遊具が老朽化のため使用中止になったため、遊具イベントを代わりに実施し、夏期には3年ぶりに「水遊び広場」が解禁されたことで、利用者が増加した。

新規持ち込みイベントの誘致では、「ANIMAL PIC FESTA in 浜名湖」が成功し、2日間で約23,000名の来場者を集めた。指定管理者は、普段からペットを連れた利用者のニーズを捉え、「ドッグラン」の導入を検討し、積極的に新規開拓に取り組んでいることを評価する。

天候に左右されるプログラムは、目標通りに実施できないことはやむを得ないが、学生ボランティアやNPOの協力のもと、浜名湖の独自性をアピールできるような天候に左右されにくいプログラムの検討も期待したい。

C 地域との連携・協働

[9段階評価] A⁺ A A⁻ B⁺ B B⁻ C⁺ C C⁻

各種ボランティア活動の延べ人数は、昨年度に引き続き今年度も目標を上回り、ボランティア向け研修会や研修旅行などの交流の場作りに取り組み、高校生・大学生や親子といった新規ボランティアを開拓したことを高く評価したい。

ボランティアの確保は課題ではあるが、現ボランティアがほぼ全員「花博2024」のボランティアに参加意思を示していることから、ロイヤリティの高さが伺える。「花博2024」を募集の機会と捉えて、ボランティア活動を来場者に紹介し、新規入会者を確保できるよう積極的に広報していただくことを期待する。

また「団体旅行」での利用者が増加傾向にあることから、近郊施設との連携を深め、地域全体の盛り上げに貢献するよう、引き続き関係各所との協働を進めていただきたい。

本公園は、都市公園経営基本計画に「県民参加による公園の管理運営の場とする」と位置付

けられている通り、「花博 2024」を契機としてさらに多くのボランティアが魅力ある公園づくりに参画し、ボランティアにとって自己実現や仲間と交流できるかけがえのない場となるよう、尽力いただきたい。

D 利用者ニーズを踏まえたサービスの提供

[9 段階評価] A⁺ A A⁻ B⁺ B B⁻ C⁺ C C⁻

アンケートの「総合満足度」について、春は 4.36 と昨年を下回り、夏は 4.41 と昨年を上回る結果となった。時期による違いはあるが、基本的には利用者が来場目的としている「花・緑」の管理に関する満足度は高く、利用者が求めるニーズに応えられていると考えられる。

例年同様、「飲食」についての要望は多く、難航している「コンテナ」出店に代わりにキッチンカーを増やし対応した。指定管理者は、季節毎のデザート開発や「食事処のたね」に新たにデッキで楽しめるテイクアウトメニューの提案を求めるなど、要望改善に努めている。

今年度はアンケート実施時期を「春・秋」から「春・夏」に変更したことから、「日影の休憩所」「ミスト」「開園時間の繰り上げ」等「暑さ」に対する利用者ニーズが顕在化した。

今年度も要望が多く寄せられた「花の名札」は、マンパワーだけでは解決できない問題と考えられることから、「花博 2024」での施策も参考に、将来的にはデジタル化での補完を検討いただきたい。

現在の園内移動手段である「ファミリー自転車」「週末運行の電気バス」は導入から 20 年経過しており、アンケートの要望通り、近年の利用者ニーズに合わなくなっていることは否めない。次の 10 年に向けて、「花博 2024」の後利用や、電動自転車、電動キックボード等新たな移動手段について本格的な検討を開始することを期待する。

E 公園の魅力の広報

[9 段階評価] A⁺ A A⁻ B⁺ B B⁻ C⁺ C C⁻

今年度は、デジタルメディア（ホームページ、SNS）の更新回数・アクセス数・いいね数の増加に加え、指定管理者が自主的にリリース配布を行ったことで、新聞掲載が昨年の倍以上になり、公園の魅力を広く告知できたことを高く評価したい。

SNSでは、昨年度指摘した改善事項への対応として、飲食・イベント告知や、ボランティア活動の紹介といった「花」以外の情報を発信することで、投稿数が倍増した結果、Instagram・X（元 twitter）はフォロワー数が大幅に増加した。またボランティア向け講習会の模様を YouTube で公開し、動画の活用にも新たな挑戦が見られた。

来年度は、団体旅行の増加、インバウンドによる外国人旅行者の復活を想定した広報プランを検討してほしい。

シニアから子供まで幅広い年齢層の利用者に向けて、今後も新聞・パンフレットなどの紙メディアと、デジタルメディアの両面からの発信は不可欠であり、更新作業の負荷も考慮しつつ、効率的で充実した情報発信に努めていただきたい。

F 収益向上への取組

[9段階評価] A⁺ A A⁻ B⁺ B B⁻ C⁺ C C⁻

新型コロナウイルス感染症の5類感染症移行後、展望台への入場制限が全面解除となったため、ゴールデンウィーク後の入場者は増加し、中間段階では目標にほぼ近い実績となった。

夏期の酷暑により、屋外での自主イベント・プログラムへの参加者数は減少したものの、物産展、朝市は目標通り実施され、安定的に収入源が確保されていることを評価する。

年々夏期の気温上昇は深刻になっていることから、有料プログラムの開催時期・内容・会場(屋内)を検討し、収益を確保できる新しいプログラムの導入を検討いただきたい。

G 安全・安心で快適な施設の提供

[9段階評価] A⁺ A A⁻ B⁺ B B⁻ C⁺ C C⁻

今年度も多くの来場者に利用されるなか、「重大事故0」が継続されており、指定管理者は日々の点検を着実にを行うことにより本施設の維持管理に努めたことを評価したい。

長年課題であった施設・設備の老朽化については、「花博2024」の開催準備により、これまでメンテナンスが行き届かなかったステージ周りやベンチ等の修繕が進んでいることを視察で確認することができた。

今年度は酷暑により夏期イベントで熱中症による救急搬送が度々発生したとのことから、今後も猛暑対策、緊急時の対応、救命講習会の確実な実施を期待する。

また、ユニバーサルデザインの観点からも、園内移動手段(花博設備の後利用、電動自転車・キックボード等)の検討は必要と思われるが、導入にあたっては、安全・安心を第一に、検討頂きたい。